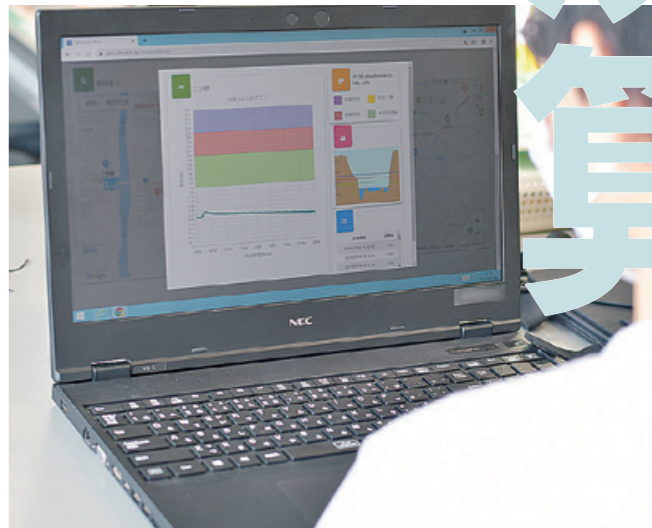


決算

舞鶴市のいちおし施策

ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし

【舞鶴版 Society5.0 for SDGs 推進事業】
 国の「SDGs未来都市」さらには全国のモデルとなる10自治体に与えられる「SDGsモデル事業」に選定され「ITを活用した心が通う便利で心豊かな田舎暮らし」の実現に向けた取り組みを進めています。
 令和2年度は共助による移動手段(meemo)導入に係る実証実験事業、産官学連携によるICTを活用した防災・減災システム導入事業、リカレント教育トライアル事業、赤れんがコワーケーション推進事業、「テレワークin MAIZURU」関係人口創出・拡大事業、AIロボティクス業務効率化事業を行いました。
 この中で特に特徴的な2つの取り組みについて紹介します。



▲水位計から得た情報を閲覧できるモニタリング情報配信システム

AI・ロボティクスの活用



【RPA※1)を活用した業務効率化】
 新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策として、いち早く市民の皆さまへ特別定額給付金を給付するため、AI-OCR※2)を活用して自動で申請内容の読み取りを行い、RPAで入力作業を自動化することで、業務の効率化を進めました。これにより、同規模の市よりも比較的早期に給付金を給付できました。
 ※1 RPA…ソフトウェア上のロボットによる自動化
 ※2 AI-OCR…人工知能による光学的文字認証技術

プログラミング教室

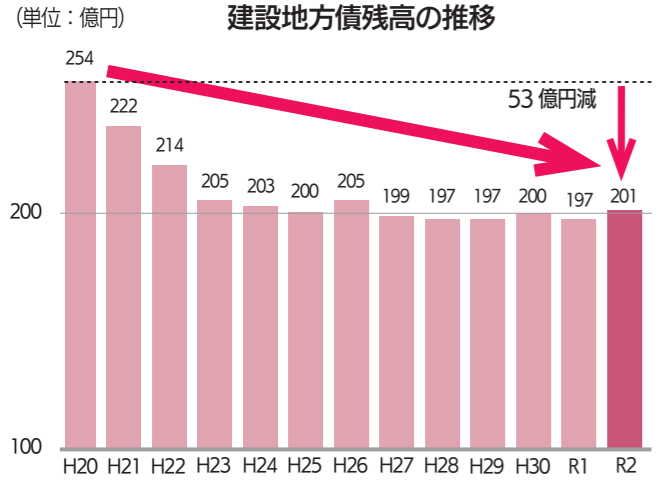


【赤れんがコワーケーション推進事業】
 コワーケーションビルディング舞鶴で、IT人材育成のため、民間企業や舞鶴高専と連携し、小学生を対象としたプログラミング教室、電気工作体験教室、ホームページデザイン制作ワークショップなどを実施しました。

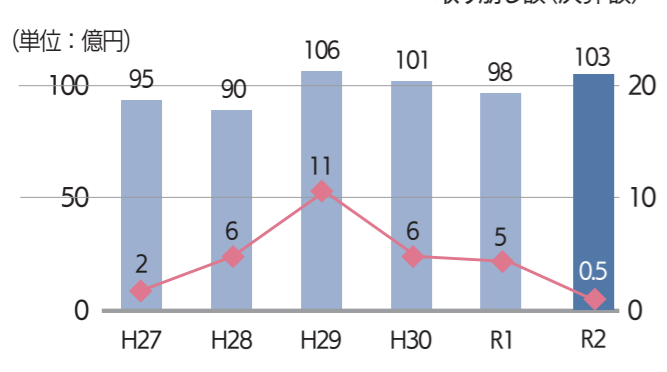
市が借りているお金

公共施設の建設、道路の整備、災害復旧などの一度に多額の費用が必要な時に借り入れるお金を地方債といいます。地方債には、数十年にわたり使用する施設を、今の税金を納めている世代だけが負担するのではなく、発行により施設を使用する次の世代にも負担してもらうことで世代間の公平性を保つ機能もあります。

令和2年度は、災害に強いまちづくりのための道路や河川の整備、生活に密着する清掃事務所や多世代交流施設「まなびあむ」等の大型施設の整備など計画的な事業に伴うものと、新型コロナウイルス感染症の影響による減収を補てんするための地方債の発行で、前年



基金残高と取り崩しの推移



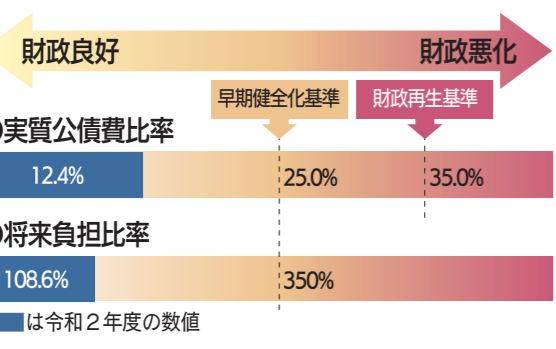
市の貯金(基金残高)

基金とは、災害などの予期せぬ出費や将来の投資に備えて「貯金」として積み立てているものです。災害のような緊急の支出に備えるためにも、基金の取り崩しを抑えつつ、効果的に基金を活用していかねばなりません。令和2年度は取り崩しを抑え、前年度より5億円、貯金を増やすことができました。

度よりも残高が増えましたが、総合計画で予定している範囲内となりました。なお、「建設地方債」のほかにも、収入の不足を補う「臨時財政対策債」の借り入れも行っていきますが、返済資金は、国の手当てがあることから、実質的な市の負担はありません。

これからの見通し

健全な財政であるか判断する指標として「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に定められた実質公債費比率と将来負担比率があります。実質公債費比率は平均的な年間収入に対する借入金返済額の割合、将来負担比率は平均的な年間収入に対する将来に負担が見込まれる借金などの割合を示しています。舞鶴市の令和2年度は、どちらの数値も危険水準(早期健全化基準)を大きく下回っていますが、引き続き健全な財政を維持していく努力をします。



《舞鶴市の財政運営》

令和2年度は新型コロナウイルス感染症という緊急事態への対応などにより、歳入・歳出とも総額が前年度を大きく上回りました。今後、市税の減少が見込まれる中、今回の新型コロナウイルス感染症のような緊急事態にも備えつつ、社会保障関係経費や公共施設等の長寿命化対策、度重なる災害被害に対応した防災・減災対策など多くの課題に対応していかなければなりません。そのためにも、補助制度の積極的な活用等による財源確保

に加え、コワーケーションを活用した新しい働き方に取り組む企業や関係人口の増加等による税収の増加に努めるとともに、得られた財源の中で創意工夫を凝らし、最小の経費で最大の効果を発揮させ、ビヨンド・コロナ社会の構築に向けて取り組む必要があります。また、将来世代の負担軽減のため、地方債については借り入れと返済のバランスを考慮しながら活用し、頻発する災害に備えるために基金の取り崩し額の抑制に努め、健全な財政運営に取り組めます。

【特別会計】

会計名	歳入	歳出	基金残高
国民健康保険	79億7,391万円	78億1,866万円	6億6,809万円
介護保険	82億8,884万円	82億1,352万円	5億4,673万円
後期高齢者医療	13億5,908万円	13億5,395万円	—
貯木	102万円	102万円	8,519万円
駐車場	3,954万円	2,575万円	7,829万円

【企業会計】

会計名	収益	費用	当年度純利益
水道事業	19億6,961万円	17億896万円	2億6,065万円
下水道事業	34億5,311万円	32億9,128万円	1億6,183万円
病院事業	9億8,891万円	9億7,368万円	1,523万円

特別会計とは、特定の事業を行う場合に、使用料などの収益でその事業の経費を賄うため、一般会計とは区別して収入・支出を処理する会計です。また、企業会計とは、民間企業と同様の経理基準で運営されている会計です。

特別会計 企業会計の決算

